

## 平成24年度 石狩市教育委員会会議（12月定例会）会議録

平成24年12月21日（金）

開 会 午後 1時30分

第2委員会室

### ○委員の出欠状況

委 員 氏 名	出席	欠席	備 考
委員長 中 村 照 男	○		
委 員 土 井 久美子	○		
委 員 門 馬 富士子	○		
委 員 松 尾 拓 也	○		
教育長 鎌 田 英 暢	○		

### ○会議出席者

役 職 名	氏 名
生涯学習部長	百 井 宏 己
生涯学習部次長	柴 口 史 子
総務企画課長	上 田 均
学校教育課長	蛭 谷 学 俊
社会教育課長	東 信 也
文化財課長	工 藤 義 衛
厚田生涯学習課長	池 垣 旬
浜益生涯学習課長	尾 崎 巧
教育支援センター長	西 田 正 人
特別支援教育担当課長	森 朋 代
市民図書館副館長	丹 羽 秀 人
市民図書館副館長	板 谷 英 郁
学校給食センター長	伊 藤 和 哉
総務企画課総務企画担当主任主査	吉 田 雅 人

## 議事日程

### 日程第 1 会議録署名委員の指名

### 日程第 2 議案審議

議案第 1 号 平成 24 年度石狩市教育委員会表彰受賞者の決定について

### 日程第 3 教育長報告

### 日程第 4 協議事項

- ① 平成 24 年度全国学力・学習状況調査結果について

### 日程第 5 報告事項

- ① 平成 24 年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」について
- ② 厚田区の学校のあり方について
- ③ 教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果について
- ④ 星置養護学校の高等部移設等について

### 日程第 6 その他

- ① 市民図書館に関する情報提供について

### 日程第 7 次回定例会の開催日程

---

## 開会宣告

(中村委員長) ただいまから、平成 24 年度教育委員会会議 12 月定例会を開会します。

### 日程第 1 会議録署名委員の指名

(中村委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名ですが、土井委員にお願いします。

## 日程第２ 議案審議

（中村委員長）日程第２ 議案審議を議題とします。

### 議案第１号の審議を秘密会とする件について

（中村委員長）議案第１号につきましては、平成２４年度石狩市教育委員会表彰受賞者の決定に関する件であり、教育委員会会議規則第１５条第１項第４号に該当しますので、秘密会として後ほど審議いたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

異議なし

（中村委員長）ご異議なしと認め、秘密会とすることに決定いたしました。

## 日程第３ 教育長報告

（中村委員長）日程第３ 教育長報告を議題とします。

（中村委員長）教育長から報告をお願いします。

（鎌田教育長）

- １１月１６日 フューチャースクール推進事業・学びのイノベーション事業公開発表会 紅南小学校
- １１月１７日 市教職員体育実技研修会 緑苑台小学校ほか
- １１月２０日 平成２４年度北海道都市教育長会秋季定期総会 室蘭市
  - ・平成２６年度の文教政策（道）に対する要望事項について
  - ・第６５回全国都市教育長協議会研究大会旭川大会（Ｈ２５年５月３０日・３１日）
- １１月２２日 定例教頭会
- １１月３０日 第４回石狩市定例市議会開会（１５日間）
  - 一般質問 １２月６日・７日
  - 平成２４年度学校課題研究発表会 双葉小学校
- １２月１０日 厚田小学校学校図書館（あいかぜとしょかん）オープン

石狩管内教育委員会協議会教育長部会 道庁別館  
・石狩教育局からの報告

- 12月11日 定例校長会
- 12月12日 建設文教常任委員会
- 12月13日 定例教育委員会管理職会議  
定例教頭会
- 12月14日 第4回石狩市定例市議会閉会  
石狩市教育情報化推進委員会  
平成24年度石狩翔陽高校課題研究発表会
- 12月15日 クリスマスコンサート2012（市内中・高生吹奏楽部）  
北コミセン
- 12月20日 地域連携研修「学校視察発表会」花川小学校

以上で、報告を終わります。

（中村委員長）ただいま、教育長から報告がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

#### 質疑応答

（門馬委員）定例市議会の一般質問は、どのような内容だったのですか。

（鎌田教育長）学校給食の管理体制や学校での避難訓練についてです。また、いじめ防止について、市内のコンビニなどと、いじめに関する防止対策として協定を結んだらどうかという質問でした。その他には、文化人材バンク制度「アート・パフォーマー・バンク」、要するにプロ・アマを問わず伝統芸能や文化、音楽などあらゆるジャンルに秀でた方々を登録して、利用者が直接指導を受けるというような活用を図ったらどうかという質問だったのですが、全国的にみても前例が少ないこともあり、今しばらく状況を見させていただきたいと答弁したところで。他には、学校施設の老朽化対策の実施についての質問がありました。

（土井委員）12月20日の地域連携研修「学校視察発表会」は、どのような内容だったのでしょうか。

（鎌田教育長）ご承知のとおり、花川小学校が学校力向上総合実践事業の中核校となっており、花川小学校の先生たちが、道内1箇所、道外3箇所を視察してきましたので、周辺の緑苑台小、双葉小、紅南小の先生を集めまして、その内容を発表したところです。

（松尾委員）11月20日の北海道都市教育長定期総会で、28都市という話でしたが、「都市」の括りは、市の教育長が集まったということですか。

(鎌田教育長) はい、市の教育長です。

(松尾委員) 来年旭川で行われる大会も、全国の市の教育長が集まるということなのですね。

(鎌田教育長) はい、そのとおりです。

(中村委員長) 他に質問等がないようですので、教育長報告を了解ということでよろしいですか。

異議なし

(中村委員長) ご異議なしと認め、教育長報告を了解しました。

(中村委員長) 以上で、日程第3 教育長報告を終了します。

#### 日程第4 協議事項

(中村委員長) 日程第4 協議事項を議題とします。

##### ① 平成24年度全国学力・学習状況調査結果について

(中村委員長) 協議事項①平成24年度全国学力・学習状況調査結果について、事務局から説明をお願いします。

(柴口次長) 私からご説明いたします。1頁をご覧ください。調査の目的及び対象学年については、これまでと同様ですが、調査の内容につきましては、今年度は理科が加わったところです。因みに来年は、理科がまた外れます。調査の方式については、平成19年度から21年度までは、全国全ての小中学校を対象にしておりましたが、平成22年度からは、抽出方式となり、全国で約30%及び希望利用調査として実施されました。昨年度は、東日本大震災の影響で全国一斉での実施は見送られ、各都道府県独自の対応となり、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加により「全国学力・学習状況調査問題を活用した学力等調査」が実施されました。本年度は、平成22年度と同様の方法での実施となりました。以下において、「全国」と記載したデータは、抽出調査結果であり、「全道」「石狩市」と記載したデータについては、抽出結果と希望利用の両方の調査結果を合算したデータです。なお、本年度は「全道」のデータに、札幌市の抽出調査

結果が含まれています。実施日は、4月17日でした。調査実施学校数及び児童生徒数は、記載のとおりです。2ページですが、これまでも教育委員会会議で、市民に分かりやすいよう公表するには、ということで、何年にもわたり議論いただいたと聞いておりますことから、今回は、先ずは結果の概要を分かりやすくということで、まとめております。本市の子どもたちの学力は、依然として全国平均を下回っている厳しい状況にあります。各教科の平均正答率は、小中全教科において全国を上回る教科は残念ながら無く、中でも全国との差が最も大きく開いたのは、小学校「国語B」で、マイナス8.1ポイントとなっています。また、正答数の状況で見ますと、新聞報道でもご覧になっていると思いますが、全国の下位25%と同じ正答数の範囲に属する児童・生徒の割合は、本市では小学校で3.9ポイントから14.2ポイントとなっております。中学校では、3.3ポイントから9.7ポイントと、全教科で全国よりも多い状況にあります。これは、因みに「下位層」と呼ばれているところです。一方、学校ごとで見ますと、各教科の平均正答率で全国平均を上回る学校も複数校あります。この「正答率が低い」ということは、「習得することが望ましいと国が判断した個別の学習内容」が、身に付いていない状態にあることを示しております。このような中、何年にもわたって繰り返し出題されている傾向の問題があります。全国的な課題となっているものであり、それは、「どこの子どもも身に付けるべきもの」と判断されたものであり、指導にも一層留意しなければならないところですが、過去の調査問題と比較すると、小中合計で国語では類似問題が17問ありましたが、中学校では7問、そのうちの3問が全国を上回り、小学校では、10問ありましたが、そのうちの2問が、中学校では2問が、全国との差が縮まっています。算数・数学では、類似問題が小中で32問、小学校が20問、そのうちの1問が全国平均を上回りました。小学校では12問中、7問、中学校では20問中8問で、全国との差が縮小しております。ただ、差が縮まっていない、あるいは拡大している問題もありますので、それについての取組は、課題と捉えております。本調査は、「学力」だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習の状況」も調査分析の対象としています。児童・生徒質問紙からは、1日当たり30分以上読書をしている小学生は36.6%、中学生は32.2%であり、全国と比較して小学校で1.8ポイント、中学校で4.1ポイント高く、良い傾向にあります。一方、「普段、（月から金）4時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、テレビゲームをしたりする」小中学生の割合が、依然として全国より高く、家庭学習とのバランスにおいて大きな課題となっております。また、「自分には、良いところがある」と思っている小学生は76.7%、中学生は60.5%であり、全国と比較して小学生で0.1ポイント、中学生で7.7ポイント低いことから、やはり自信を持たせていく指導が必要であると考えております。学校質問紙からは、放課後や長期

休業中を活用した補充的学習における積極的な取組や、授業改善・指導形態の工夫など、努力されている傾向は伺えますが、取組全体の成果と課題を総合的に把握し、対策を明確にしていくことが大切であると考えております。子どもたちの学力向上のためには、学校・家庭・地域が一体となって、危機意識を共有していただき、連携協働して改善に取り組むことが不可欠であることから、市民の皆様のご理解・ご協力をいただきたくて、このような内容を載せました。次に、結果分析ですが、これまでの分析と少し変えた所は、全国の抽出、全道の公立の結果については、これまでと同様の載せ方ですが、その下の全道との比較、「同様」とある網掛けの部分が全道で、石狩市は、それと比較すると「○」の位置であって、さらに、今、全国平均を標榜するということが言われておりますので、全国がそれに比してどの位置にあるかを、分かりやすく見てもらうために「☆」で記載しております。また、その範囲については、この枠の中に書きましたとおり、プラス・マイナス1ポイントであれば、同様だけれども、例えば、1ポイント以上3ポイント未満であれば、同様ではあるけれども、やや上位に属する、その逆であれば、やや下位の方にあるということを見ていただけるようにしています。次に、領域観点別の正答率の比較グラフを載せています。どの辺りが弱いということが視覚的に捉えてもらえるようにということで記載しました。

小学校の国語科全体の概要としましては、目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合うことについては、定着が見られます。また、百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉えることには、定着が見られますが、漢字の筆順は、理解の定着は見られるものの、「書き」ということになりますと課題がみられます。また、学習状況調査での解答時間が「余った」、「ちょうどよかった」等の肯定的な回答率は、全道と同様でしたが、無解答率は全道よりもやや高い傾向にあります。つまり、解けていなくても「足りない」とはなっていないところにも着目する必要があるのではと捉えています。

次の頁ですが、国語A、主として「知識」を問われる問題です。枠内の記載は、基本的な知識技能が身に付いているかを見る問題で構成されているということで、下の「・」にあるようなことを聞かれているということです。「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と比べ、同様（上位）の傾向を示しています。例に出しているのは、その領域にはどんな問題が出されているかを見ていただくためのものですが、ここに石狩市の正答率と全道の正答率を載せましたので、このパーセンテージが、先ほど説明したポイントと違うと混乱をされるのではということで、領域の結果と同じ場合にはこのままの例に載せているのですが、例が領域全体の傾向とは少し違う場合には、「(例) ※同様（下位）の例」などと、注釈を記載したところです。ただ、全体的に記載の洩れている場所があり、現時点で精査できていなくて申し訳ありませんが、そこについては改めて載せていきたいと存じます。

「指導の改善にあたって」ということで、Aの問題については、枠内に記載しているような内容ですが、漢字を正確に書く力では、漢字の場合は、「大体あっているのだけれど」ということでは駄目な訳で、きちんと書けなければならないということで、ここの辺りで子どもたちは、随分ポイントを落としていると伺えますので、定着状況を確認する機会、例えば、「〇〇テスト」みたいなことを設けたいと思います。

国語Bですが、これは、主として「活用」に関する問題、得た知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。指導の改善にあたっては、全道に比較して国語Bについては、同様からやや低い結果になり、差が拡大しました。そのようなことから課題の明確化と、より対応の具体化を図るため、今後は、記述の点に指導を強める必要があると考えています。目的や意図に応じ、資料を的確に読み取り、狙いを明確にしながら、適切に質問する指導の充実が求められています。そのために、資料を分析し考察する力を定着させる必要があります。また、依頼文や案内状などの実用的な文章の作成や、それに対する返事の仕方について、適切な敬語の使用が求められます。そのために、表書きや後付けなどの基本的な形式を理解させ活用させる指導の充実が必要です。このところ手紙を書くというような慣習は、ご家庭でもやや少なくなっているという辺りから、学校でも指導が必要かと思っています。また、目的や意図に応じ、複数の情報を結びつけることや、編集者の意図を推論しながら自分の考えをまとめる指導の強化を図る必要があります。そうしていかなければ国語Bは、上がって行かないとおさえています。全体を通した、教科に関する意識ですが、「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、昨年度より向上していますが、全道に対して石狩市は3.8%低い結果となっており、これがこのような結果につながっているのではないかと思います。「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、昨年度より向上していますが、全道の92.9%に対して石狩市は、少し低くなっています。「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答も、昨年度より向上していますが、全道の83.0%に対して石狩市は80.0%と3.0%低くなっています。これらについて、少し考えていかなければならないと思っています。

次に、小学校の算数ですが、日常の事象を数理的に捉えることや、比例の関係の理解については、定着が見られますが、市内各校の正答率の向上は見られるものの、全道と比較すると、残念ながら全道を上回るまでには至っていません。また、小数の引き算、分数の割り算、示された情報を基に筋道を立てて考え、図形の面積の関係を判断することに課題があります。解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」という肯定的な回答は、A問題もB問題も全道よりやや高くなっています。A・Bとも無解答率は、全道とほぼ同様ですが、減らしていきたい



と考えています。

算数A、主として「知識」に関する問題では、指導の改善にあたって、整数、小数、分数の四則計算の仕方が定着するよう、必要に応じて繰り返し指導し、計算技能の習熟が図られる指導に努める必要があります。これは全ての基本になりますので、いついかなる時に問われても、正確に速く答えられるということが非常に大事になると思っています。また、身の回りの具体物の大きさの見当を付ける活動を通して、面積についての感覚を豊かにする指導、図形について、算数の用語を正しく用いて辺や面を適切に表現できる指導の強化が必要です。

次に、算数B、主として「活用」に関する問題ですが、指導の改善にあたっては、特徴を言葉や記号を用いて観察し、図形どうしの面積の関係を確実に理解できるように、指導を強化する必要があります。Bは応用問題ですので、身の回りから平面図形や立体図形を見出し、その図形の定義や性質を基に考察することで、合理的に処理できることを実感させる指導の強化が必要です。基準量、比較量、割合の関係を図に表したり、□を用いた式で表したりして、数量の関係を捉える活動の充実が必要です。教科に関する意識については、「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道に対して石狩市は3.1%高く、「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道と同じ、92.2%を示しており、「算数の授業の内容はよくわかりますか」、「問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対する肯定的な回答は全道とほぼ同じ傾向を示しましたが、「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか」では、やや低くなっています。

次に、小学校理科ですが、理科の概要は、基本的な知識・技能については、全国や全道と同様の傾向が伺え、まずまずの定着が見られます。植物の受粉と結実のメカニズム、天気と気温の変化との関係について、データを基に分析し、その理由を記述することに課題があります。解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答、及び無回答率については、全道の平均より良好な結果となっています。

理科A、主として「知識」に関する問題については、指導の改善にあたって、光電池や乾電池の働きを強くする要因を理解するためには、自らの操作と実際の物の動きと関係付けた結論に結びつける指導の充実が必要です。植物の成長の規則性を他の植物にも適応させ、受粉から結実までの現象を一般化させる指導の強化が必要です。理科B、主として「活用」に関する問題ですが、指導の改善にあたって、観察・実験の結果を多様な観点から分析し、観察や実験方法の妥当性や信頼性を吟味しながら、批判的に捉えて考察できるように指導の工夫が必要です。また、学校行事などに関連させて天気の変化について興味・関心を持たせ、雲や気温などの様々な気象条件について、多面的に考察できる指導の充実が必要です。

教科に関する意識については、「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道に対して3.9%高くなっています。「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道に対して1.3%高くなっています。「理科の授業の内容はよくわかりますか」「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか」への肯定的な回答は、全道より高い傾向を示しました。これらが、成績にも反映されているのではと考えています。

次に、中学校について、中学校国語の正答率の状況の表を見ますと、中学校は相当努力をしたのではないかと見ることができます。

国語科の概要は、基礎的・基本的事項の知識理解は、ほぼ定着しています。国語Bの「読むこと」の領域は、全国と同様です。無解答率は、全道とほぼ同様です。漢字・語句等の定着、日常的な活用になお課題があります。また、順序立てて考えることや相手の立場に立ってわかりやすく説明することにも課題があります。

国語Aの指導の改善にあたっては、学習した漢字を各教科等の学習や日常の活動等で意図的に活用するなど、定着のための機会を意図的に設定する必要があります。漢字・語句等を正確に読み書きさせるだけでなく、用法を正確に理解し文脈に即して活用することができるよう、指導に努める必要があります。

国語Bの指導の改善にあたっては、全体としては、全道と比べ「やや低い」状態から「同様」へと改善が見られましたが、以下の点については、今後も継続して指導に努める必要があると考えています。「読むこと」の領域では、文の大意を把握することができていて、これまでの読書活動への取組の成果と考えています。自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って組み替えてみたり、相互評価したりするなどの指導や発展的な問題が多い中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題が残ります。また、基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理することや、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。教科に関する意識では、「好きですか」に対する肯定的な回答は、全道に対して4.3%高い結果が出ています。「大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道に対してやや低くなっています。「授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道に対して2.1%低くなっています。「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道に対して2.2%高くなっています。

数学科の概要では、基礎的・基本的事項の知識理解は、ほぼ定着しています。図形など、具体的事象の基礎・基本は、全道と同様です。しかし、基礎的・基本的事項の日常的な反復に課題があります。基礎的知識の連携、論理的な思考に課題があります。解答時間が「余った」、「ちょうどよかった」の回答は、全道と同

様ですが、無解答率が高い傾向にあり課題があります。

数学Aの指導の改善にあたっては、例も出していますが、基礎的事項の習熟には日常的に繰り返すことが大切であり、意識的・計画的に演習するなど、反復して定着に努める必要があります。また、具体物を活用するなど、視覚的な教材を工夫や「数量関係」領域の特に比例・反比例については、語句の意味の理解やグラフと式の関係等を復習し、演習を繰り返し定着させる必要があります。

次に、数学Bですが、無回答率が全国全道よりも高いことに課題があります。指導の改善にあたっては、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理・確認し、繰り返し指導・確認する必要があります。また、領域の関連性を考えて活用できるよう、繰り返し学習に取り組む必要があります。出されている問題は、特定の領域だけに関する問題と複数の領域が合わさっている問題もありますので、そのように考えています。さらに、資料を読み取り、数理的に考察することを位置付けた学習に取り組む必要があります。あるいは、日常生活の中から数学的な考え方が導き出せるように取り組む必要があります。また、無解答率の向上には、時間を効果的に活用し、最後まであきらめずに考えるよう、日常的に指導を続けることが大切と考えています。教科に関する意識では、「好きですか」に対する回答は、全道に対して4.5%低くなっています。「勉強は大切だと思いますか」は、全道に対して5.3%低くなっています。「よく分かりますか」は、全道に対して5.8%低く、「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.3%に対して石狩市は90.2%で2.1%低くなっていますが、9割以上の生徒が「できるようになりたい」との願望を持っているという所を私たちは見るべきで、その支援ができなければならないとおさえています。

次に、理科ですが、理科の概要は、基礎的・基本的事項の知識理解は、ほぼ定着しています。ただし、情報から論理的に考え、類推することや物理的領域、応用・発展的課題の習熟に課題があります。類推する力が学力の一つの大きな力でもありますので、そこにも力を入れたいと思います。

理科Aの指導の改善にあたっては、自然の事象や日常生活との関連性のある生物学的領域や地学的領域についての基礎的・基本的事項は、今後もさらに充実に努める必要があります。物理的領域や化学的領域では抽象的・論理的思考や数値の把握及び計算、実験観察等が必須であり、生徒が興味関心を持って取り組める教材の工夫、指導に努める必要があります。また、日常生活環境の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えることや相手の立場に立ってわかりやすく説明することの指導にも努める必要があるとおさえています。

理科Bの指導の改善にあたっては、実験の目的を把握し、必要な情報・条件を整理比較して説明できるよう指導に努める必要があります。発展的な問題が多い

中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題があります。基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理することや、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。それから、発展的問題の対応として、設問がどのような基礎・基本事項で構成されているかを分析し、理解させる必要があります。活用の考え方は、類似問題を繰り返すことで定着させる必要があると捉えています。教科に関する意識では、「好きですか」では、全道に対して0.9%高い結果が出ています。「大切だと思いますか」では、5.6%低くなっています。「よく分かりますか」では、5.5%低くなっています。「将来理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の22.6%に対して石狩市は、23.4%で同様です。「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道とほぼ同様です。以上が、教科に関する概要です。

次に、児童生徒質問紙では、平成23・24年度、北海道と全国を比較して見られるように構成しています。一つひとつについては、説明をしますが、寝る時間に、起きる時間もかなり左右されるということ、そのことが不登校などにも高く関連するというので、この辺りはご家庭にも協力を仰いでいかなければならないところと感じています。先ほど全体の概要の中でも話しましたテレビゲームなどをする時間などについては、23年度と比較して良くなったり、悪くなったりということはあるのですが、やはり全国と比較するといずれにしても、まだまだと捉えるべきことだろうと思っています。23頁の「5. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか」についても、3時間以上というのも結構多いですが、やはり、4時間以上がこれだけあるということは、由々しき問題でもあると捉えており、これもご家庭の方に家庭内で約束ごとをすること、繰り返しお願いしなければならないと思っています。家庭学習・読書では、コンスタントに家庭学習をするということが外せない点ですが、それ自体は増加しています。ただし、宿題をする習慣、この辺りや、これは全国よりも多い家庭での読書、これらは、先ほどのテレビゲームやそのようなものと家庭に帰ってからの全体の時間の中で何ほどのくらいの割合で使うのかということ子どもにもきちんと意識させ、家庭にもお願いするといったようなことでなければ、なかなか数値は、片一方だけでも上がっていかないところであろうと捉えています。国語の学習については、決められた字数の作文が苦手、これは全道とほぼ同じなのですが、書くというところについては弱かったり、記述式に弱かったりということがあり、その辺は子ども自身もそう考えていますので、指導に活かしていきたいと思っています。次に、27頁ですが、「根拠を明らかにして書く」という辺りは、小学校では意識

が少し出てきたところです。文章で答える問題ですが、これは中身が間違っているのではなくて、もとより書かないという傾向が多くありました。例えば、「この形は何ですか」という問いで、答えが「直角三角形」だったとして、「正三角形」または「三角形」という間違いではなくて、何も書かずに間違いという、このようなことが非常に多かったのですが、「文章で答えなさい」という設問や、問題文自体が長い設問に関して、少し取り組むようにはなってきたと、そして、子ども自身もそれを感じていると児童質問紙から読み取れます。算数・数学について、「算数の授業が分かる」は、増えてきました。ただし、中学校におきましても先ほど学力の結果でお話しましたとおりです。分かるということが小学生において増えてきているのですが、そのことが実を伴ってこないと中学校の学力の結果の方には、なかなか現れてこないというところがありますので、小学校の時点で落ちがないようにやっていかなければならないと思うところです。工夫した問題解決の姿勢についても、やや定着や改善が見られています。ノートの工夫について、今、学校でも力を入れ始めているところです。この時点では、まだ結果という形までには、つながっていませんが、そういったことが現れているのではないかと思います。言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題は、まだ弱いということで、さらに改善を図っていかねばならないと思います。理科の学習については、「理科の授業が分かる」という小学生は、全国以上となっています。観察や実験の結果からの科学的思考でも小学生では、全国より高い傾向となっています。「言葉や文章を使って、わけや求め方を書く問題」については、同様の傾向ですが、これらについても国語のところで他の教科の中でもそういうことをという話をしましたが、例えば、理科、算数、数学においてもわけや求め方を書くところをきちんとさせることで、また国語の方にもさらに反映されていくのではと思っています。

次に、学校質問紙ですが、学習態度は、落ち着いた態度は、小学校の方は全道全国よりも高いのですが、23年度よりは下回っています。中学校では非常に大きく伸びていて、学校の先生の実感としても落ち着きがなければ、なかなか学力に伴っていかないということが見てとれますので、その辺りにも留意していかねばならないと考えています。「学力向上に向けた取組」で、読書活動への取組は、定着してきているのではないかと考えています。補充的学習サポートには、まだ差があるということで、ここに関しては、学校には、これまでも頑張ってきたところですが、さらに努力をいただかねばならないと思っています。ただ、放課後、長期休業日を活用した補充的学習については、年々整ってきてはおります。指導方法・学習規律については、授業充実への工夫・改善に努力が見られる、学習規律やノートの取り方等の改善については、全国全道より高い割合となっています。学習方法に関する指導についても、努力をしているということが見てとれます。

教育機器の活用については、小学校が23.1%、中学校で12.5%が週1回以上行ったと答えており、石狩市でも教育機器の積極的・効果的活用に期待して力を入れているところですので、一層力を入れていきたいと思っています。全国学力・学習状況調査等の活用については、改善が見られております。これまでは、テストをしたらそれで終わりというようなところもありましたが、その問題を活用してきており、特に中学校でも非常に活用するようになったと見てとれます。習熟度別少人数指導については、児童生徒の習熟度に応じた対応の改善を、学校は時間や人手を駆使して行っているとのこと。教科の指導方法では、教科の特質に注目した指導の改善については、小学校、中学校ともに「書くこと」の意識は高くなっています。地域人材の活用・施設等の活用では、「よく行った」、「どちらかといえば、行った」は、高くなっており、地域の協力を得てよく取り組まれています。家庭学習・家庭との連携ということで、家庭学習や家庭との連携が意識され、啓発活動を推進されています。大きく違うのは、これまでは、学校全体にこういう指導を行っていますかということだったのですが、今回は該当学年がこの年度にどうなのか、前年度までにどうなのかという辺りで聞かれているということです。物によっては昨年度より伸びているように見えないという点もありますが、それは、どこの学年でもムラなくやっていただきたいと思います。以上です。

（中村委員長）ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

### 質疑応答

（松尾委員）調査結果については、どの程度公表するものなのでしょうか。

（柴口次長）本日の資料の内容を、ほぼそのまま公表しようと考えています。

（松尾委員）一般の方に公表することを前提に作っているということですね。学校の先生方は、これよりもう少し詳しいものをご覧になれるのですか。

（柴口次長）各学校には、自分の学校の結果が戻ってきます。今回の資料で示した結果というのは、市内全体を合算して、その平均を出していますが、学校の実態は、かなりこれと違ってきます。学校としましては、かなり詳しく結果を見ておりまして、地域にお知らせする時も、当校では、ここの分野が良かった、悪かったなどや結果の分析もお知らせするところで、この結果とは少し違うということはあると思いますが、学校では詳しく分析をし、教育委員会からもアドバイスなどもしています。

（百井部長）情報の提供、公開については、今回の資料自体、教育委員会会議の公開案件となっていますので、この資料自体が市民の方の目に触れるようにする

というのが大原則です。加えて、例えば一般市民の方にお伝えする際に、全部をお知らせということは公開上していますが、さらに分かっていただくと言う意味では、概要版ですとか、議会に報告する際には抜粋ですとか、いくつかの手法を使いながら公開していきたいと考えております。

（松尾委員）データですが、各科目なりの平均値で出ていますが、実際はそれぞれ、例えば上位層の子どもがいて、下位層の子どもがいて、分布はそれぞれ違う状況があると思います。その状況によって、対応の仕方が随分変わってくると思うので、実際これを活かしていくためにはそういうことが必要だと思いますので、そういうものを活かして学校と連携をとってやっていただければと思います。それから、文面の部分で、1頁の調査の目的の(1)に、「全道的な児童生徒の学力」と記載されていますが、これは全国調査で、全道、市内ということなので、ここは「全道」という表記ではないと思います。また、2頁に「このような中、繰り返し出題される問題は・・・」云々の所ですが、何回か読むと意味が分かったのですが、例えば、「国語では、小中合計の類似問題17問中、中学校で7問中3問が全国を上回り・・・」とそのまま文章が続いているものですから、「小学校では10問中2問、中学校では7問中2問」これは、何のことを言っているのか分かりづらかったので、文面を区切った方が、市民の方が読む時にも分かりやすいと思います。また、「全国平均を上回る学校も複数校あります。」とありますが、その上回る学校とその他の学校では、色々違いがあると思うのですが、かなり差がある中で、その理由は何なのか、背景は何なのかについて、ある程度把握しているのでしょうか。

（柴口次長）全国平均を上回る学校は、各教科の平均正答率での話でして、なかなか一つの要因では語れない問題があるのですが、例えば、国語Aは非常に低いのに何故か国語Bは非常に良いとか、その学校の中でも違っていて、その年度によって非常に大きく入れ替わってしまいます。それから、今年は国語がとても良かったけれども、次の年になると同じ学校で国語が悪くなるというようなことで、なかなか要因、背景を一口に説明するのも難しく、それを決めてしまうのも難しいと考えています。

（松尾委員）後ろの方で、学習状況調査「学校質問紙結果」よりとありますが、概ねの傾向なのですが、石狩市の指標が良い形で出てきていると思います。これは、学校からの回答がそのまま記載されている訳ではないですよ。例えば、「全国学力・学習状況調査等を活用し具体的な教育指導の改善等を行いましたか」の回答で具体的にどういう改善をしたかという部分は、どのようなものがありますか。

（柴口次長）本市の子どもたちがおかれている環境の背景から見ますと、例えば、B問題に代表されるようなものに触れる機会が少ないということもあります。そ

のようなことから、問題自体に慣れていないということがありまして、この調査の時に初めてそのような問題を見ましたということがないように、そういう問題を使って、またはこういう問題には、こういう考え方で解くのだという指導が行われるようになってきているというようなことです。

（松尾委員）例えば、学習態度の部分、中学校では急速に変っていると思うのですが、これが本当に、昨年落ち着きがなかったのが、今年落ち着いてきたということであればいいのですが、基本的にこういうデータは、数値が急激に変わっている時には注意をして見ないといけないのではと思うものですから、その辺りを丁寧に見ていただいて、活かしていただければと思います。

（土井委員）本当に学校ごと、地域ごとに全部違うのですよね。この資料は、市全体を平均化していますが、個々の学校の結果については、それぞれ個人まで来ていますので、個人でどこが弱いのかということで考えていただければいいと思うのですが、私は、この資料の見方は、市民に事細かく教えることではなくて、石狩市全体の状態がこんな状態だと、どこが良くて、どこが弱いということを共有する資料だと思います。そう考えた時に、私が一番感心しているのは、このレーダーチャート型グラフです。これを見ると、全国・全道とほぼ同じ傾向なのです。今まで何回か行ってきた中で、毎回、線が大体沿っています。ということは、これは、今の国全体の状態だと思います。その国の状態の中で、石狩市はどこが一番外れているかというのを見ているのです。そう見ますと、小学校の国語Bが一番外れているのです。これは、国語力です。例えば、理科の問題を解くのに、国語の読み取りが十分でないと無回答となってしまいます。無回答が多いことの要因は色々あると思いますが、ここに象徴されると。やはり、国語Bですね。小学校時代から国語力が重要です。それから、私が注視しているのは、意識調査です。好きか、大切か、私は子どもたちのそこの変化に着目しました。自分の学力を知って、これから大人になるに当たり、その大切さを理解し、こういう職業に就きたい、あるいは、授業が面白いなどです。そういったことが、「学力の要」だと思うのです。そういう面で、国語などは上がってきています。理科についても、理科離れがあると言いながらも、若干「楽しい」と回答しているので、石狩の子どもたちは楽しく勉強しているのだらうと、資料から見えています。多分、市民もそこを見てくれるのではないかと思います。また、学校質問紙の結果を見ながら、素晴らしいと、各学校の取組に花マルを付けています。指導改善が中学校は100%で、学校も先生方も頑張っているし、子どもたちも頑張っているのだと考えました。ただ、頑張っているといっても正答率で成果が出ていないですけども、それはこれから数年か後に成果が出るであろうと期待しています。実は、一昨年にPTA会長の会議に出席して、この全国・学力学習状況調査結果分析について次長が説明したのですが、その後の話合いになった時に、あるPTA会長



さんが、「色々聞いたけれど、悪い所ばかりで、どこか良い所はないのか」と話していました。その時の良い所は、握力でした。その時に、やはり市民は、悪い所ばかりでなく、良い所も出してあげる方が、これからどうしようという時に意欲が湧くのだと思いました。そういう視点で見た時には、全体としては上がっていると見てとれましたので、このような分析は、市民が喜んでくれるのではないかと思います。課題については、一般市民は別として、この問題に携わっている人たちは、地域の人も含め、その学校の弱さなど実際にはもう分かっているのです。学力テストをやると結果が出てくる訳で、それは個人にまで帰ってくるのですから。ですので、調査の目的と公表の方法としては、これで良いのではと思っています。

（門馬委員）膨大な報告書を出していただきまして、ありがとうございます。これは大変なエネルギーと時間がかかったのではないのでしょうか。読むのも大変でした。一般市民にこれを公表するという話ですが、逆にこのままですと、どこまで読んでいただけるか不安なぐらい膨大で詳細な資料だと思います。この資料から見えてくる点は、確かに学力は、結果としては、全国・全道と比べると劣っているかもしれないけれど、学校も努力している、それに応えて子どもたちも少しずつ努力していて、成果を挙げつつある。今後が楽しみだという気がしました。小学校で力を入れていますから、これが中学校に行ったときに成果が出るのかなと期待しています。今すぐには努力の効果は出ないでしょうけれども、何年か経った時には必ずそれは実を結んでくれるのではないかと期待しています。例えば、国語の力、書くことが弱い、漢字が何となくではなくきちんと書けなければいけないということは基本ですが、これが小学校の時点でできていないと、そのまま中学校に行ってしまうですね。ですから、基礎基本の所は小学校が要なのだと、この資料から読んでとれるような気がしました。これからが楽しみだという気がします。これは個人的な感想で申し訳ないのですが、膨大な資料を出していただいたのですが、なかなかこれを一般市民が全部目を通すというのは大変なことだと思います。これは平均の石狩の姿であって、各学校や各個人には、それぞれ分析結果が出る訳ですよね。「調査報告書」は、もう少し簡素で読み易くてもいいのかなと思います。43頁ある資料ですが、これを熟読するのは大変です。2頁に「概要」がありますが、これをもう少し膨らませていけば良いと思います。これをざっと眺めると石狩の子どもたちの平均像が見えるというようにしていただけると、一市民としては分かりやすいかなという気がします。そこで北広島市の報告書を見てみましたら、9頁なのです。市民に公開しているものはぐっとダイジェストされています。そういう方法もあり得るかなという気がします。

（中村委員長）資料の1頁、2頁について、意見等を述べさせていただきますが、今回新たな形で時間のない中、よくぞここまで整理してくださったと感謝してお

ります。せっかくここまで良くしたのでですから、少し調整を加えるとさらに市民の皆様方に受入れやすくなると思いますので、お話をさせていただきます。

2 頁が、とても大事なところでして、タイトルが「結果の概要」とありますが、市民の皆様は、石狩市の学力の現状とその課題の克服を目指して取り組むことの必要性を訴えていくため、「石狩市の学力の現状と課題の克服を目指して」と修正し、1 頁に掲載していただきたいのであります。

なお、現在1 頁の記載事項は、「調査の概要」とタイトル付け、2 頁に掲載していただきたいのであります。

また、文言の追加ですが、2 頁2 行目の「各教科の平均正答率でみますと、」の次、「小中全教科において」の前に、「昨年より小学校では、国語A Bが後退し、中学校では、国語Bが大きく改善が見られましたが」など、今年の特徴的なところを記載してはいかがかと思います。以上2 点について、お考えをお聞かせ願えればと思います。

（柴口次長）皆さんから意見をいただきましたように、市民に分かりやすくという視点に立っていただいたアドバイスですので、そのような題名の方が、人は開く意欲がおきるという題名も大事かと思いますので、いただいたご意見、あるいは結果の概要の中で、今ご指摘の点、先ほど松尾委員からいただいた所などを事務局で精査して、出したいと思っております。

（中村委員長）この度の公表に関する一連の取組について、皆さんにお礼を申し上げます。

全国学力・学習状況調査結果の公表方法につきましては、平成21 年度以来今日まで教育委員会会議で、様々な議論を積み重ねてまいりましたが、この度、平成24 年度の全国学力・学習状況調査の石狩市の結果について、全国・全道と比較し、様々な視点から石狩市が抱える教育課題などを明らかにし、市民の皆様公表する運びとなりましたが、これもひとえに、長年にわたる歴代事務局職員のご努力とご協力のおかげと、心から感謝申し上げる次第であります。

現在、石狩市の子どもの学力は、依然として全国・全道平均を下回っている厳しい状況にありますが、この度の公表によりまして、市民の皆さんと危機意識を共有し、ご理解とご協力を賜りながら、学校・家庭・地域が一体となって、連携協働して改善に取り組むこととしたものであります。

石狩市教委が、道教委の指標（9 段階）に基づき、全国・全道と石狩市を比較するのは、全道初の画期的な試みであり、今後必ずや学力の向上が図られると、心の底から信じているところです。

このような、新たな第一歩を踏み出すに当たりまして、改めて事務局の皆様のご努力に、深く感謝を申し上げます。

(中村委員長) 他にご質問がないようですので、協議事項の①につきましては、各委員のご意見等を踏まえ、事務局で所要の修正をし、年内に公表することにご異議ありませんか。

異議なし

(中村委員長) ご異議なしと認め、協議事項の①を了解しました。

(中村委員長) 以上で、日程第4 協議事項を終了します。

## 日程第5 報告事項

(中村委員長) 日程第5 報告事項を議題とします。

### ① 平成24年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」について

(中村委員長) ①平成24年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」について、事務局から説明をお願いします。

(柴口次長) 平成24年度の石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」について、報告いたします。目的は、市の教育目標の達成及び現代的教育課題を解決するため、専門的知識や実践的指導力など、教職員に求められる資質の向上を図るということで、昨年からはまったところ。日時、場所については、1月11日に予定しています。会場は、花川北コミュニティセンターです。対象は、市内小中学校教職経験10年以下の教諭及び期限付き教諭、ここについては、10年経ちますと10年研修が始まりますが、そこに至るまでの間は、なかなか研修が整わないということと、期限付きの教諭が、石狩でも初任教員の中では、ほとんど期限付きを経験している、あるいは石狩市で経験をして、石狩市で採用となって来られたという先生もおられることから、そういう先生方にも入っていただいて研修をと思っております。下記の内容から見まして、初任者指導担当教諭や教務主任等、若手指導の立場にある教職員にもご案内をしたいと思っております。内容は、講義及び質疑形式で、講座名が少し、ぎょつとする中身ですが、「崩壊しない学級づくりと日常授業の改善」として、講師に野中信行先生を迎え、これは、学校力向上に関する総合実践事業アドバイザーの先生方が何名か全国的な先生がいらっしゃいまして、道教委の方で実践指定校が研修を行うのであれば招聘できる

ということで、それに併せて行うというところです。講師の先生は、研究テーマが「学級組織論」で、著書にありますように、大学ではなかなか習わない、教師になってからもなかなか習うことが少ない、しかし、今の石狩市の中でも大変な学校の状況にあるということで、喫緊の課題が様々ある中でも、学級をきちんとするという事は非常に大変なこととなっています。そのようなことから、この先生に是非やっていただきたいと思っております。講師は、学校力向上に関する総合実践事業実践指定校である花川小学校で呼んでいただき、学校力総合実践事業指定校、近隣校は全員対象として、その他の学校からも参加いただきたいと思っています。以上です。

（中村委員長）ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

（土井委員）喫緊の課題の学級づくりがテーマですが、これは10年以下の教師以外は駄目なのでしょうか。ベテランの先生でも学級の危機は、結構あると聞いていますので、そういう先生方が来てもいいのでしょうか。

（柴口次長）勿論そうです。校長会、教頭会で教職員皆さんにご案内くださいと、ただし、10年以下の先生は是非ともということです。

（松尾委員）講師の招聘は、花川小学校とありますが、花川小の先生達が企画してこの先生を呼んだということですか。

（柴口次長）学校力総合実践事業というのがありまして、実践校を引き受けた学校は、総合実践事業アドバイザーの先生の研修を受けることができるという特典があります。なかなかこういう先生方は、単体で呼ぶことが難しいのだけれども、その実践校が北海道に7校あって、その7校については、研修を受けたいと申し出れば、日程を調整して来てくれるという仕組みです。

（中村委員長）他にご質問がないようですので、報告事項の①については、了解ということでよろしいですか。

異議なし

（中村委員長）ご異議なしと認め、報告事項の①を了解しました。

## ② 厚田区の学校のあり方について

（中村委員長）②厚田区の学校のあり方について、事務局から説明をお願いしま

す。

（上田課長）厚田区の学校のあり方について、説明します。資料の2頁をご覧ください。厚田区地域協議会の資料として作成されたものですが、記載のとおり、参加者は、厚田区地域協議会の代表2名、保護者代表10名、各校の教頭5名の17名で、「3 これまでの経緯」にありますように、5月から11月まで、5回にわたり、話し合いを行ってまいりました。今後は、年明けの1月23日に6回目の開催を予定していて、一定の結論を出すこととなっています。この会は、将来にわたって、厚田区により良い学校を残すために、地域の意見交換の場として、設定したもので、最終的には新しい学校の場所の話になってしまうのではという意見もありましたが、先ずは現状認識を深めることが大切という認識で一致しています。聚富中学校の複式化については、口頭での報告になりますが、10月30日にPTAの臨時役員会に教育委員会からも出席し、話し合いの場を設けました。PTAが独自に行ったアンケート結果では、複式化でも当面構わないとする意見が多くありましたが、将来的にこのままの状況で良いというわけでもなく、今後も引き続き、情報の共有も含めて、検討を続けていこうという状況です。以上です。

（中村委員長）ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

（門馬委員）聚富中ですが、このままいくと25年度から複式になるのですか。

（上田課長）現状の見込みでは、なりそうな見込みが濃いのですが、転入転出の要因があれば変わるということもあります。このままいけば、25年度から複式になると見込まれます。

（門馬委員）保護者の皆さんは、当面それでもいいのではないかというお考えということですか。

（上田課長）夏に行ったアンケートの結果で、小中児童生徒の保護者全員からアンケートをとって集約したのですが、今まで聚富小中は併置校ということで、一緒に勉強もそれ以外のことも行われてきて、さらに兄弟で通っている状況の中で、今中学校の複式化は、目前に迫っているのですが、学校については現状を一定程度評価されています。ただ、この先、まだ2年3年先にも、さらに一桁ぐらいまで生徒数減が見込まれるのですが、その時までには現状でいいとはなかなかないのかなと、ただ、現時点で、「いつから、どう」と決めるまでには至らないというのが現状です。

(中村委員長) 他にご質問等がないようですので、報告事項の②を了解ということとよろしいですか。

異議なし

(中村委員長) ご異議なしと認め、報告事項の②を了解しました。

### ③ 教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果について

(中村委員長) ③教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果について、事務局から説明をお願いします。

(蛭谷課長) 教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果について、説明します。資料は3頁からです。この度、教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果につきまして、12月6日付けで北海道教育委員会から関係市町村教育委員会宛てに通知がありました。この通知につきましては、4頁に記載のとおりです。この調査は、平成22年度に実施されました会計検査院の实地検査において、教職員の一部において給与費の執行に適性を欠く事態があったことから、北海道教育委員会が、道内の道立及び市町村立学校に勤務する教職員の平成18年度から22年度までの勤務の実態について、本年5月に教職員から直接事情聴取するなどして調査を行ったものです。この調査の結果、会計検査院の实地検査と同様、一部の教職員に適正を欠く事態があったとされています。資料の5頁をご覧ください。不適切な事由としましては、先ず1番目に、職員団体活動の不適切事案で、勤務時間中に職員団体の活動を行っていたものです。2番目に、教育研究団体の不適切事案で、本来、教育研究団体の業務を勤務時間に行う場合は、自校又は教育委員会における研究、研修と密接に関連している場合のみ、場合によっては外勤、出張又は職専免が認められるものでありますけれども、単に会計事務など、庶務的な事務に従事していたものが該当しております。3番目は、校外研修の不適切事案で、研修計画上、図書館等で研修を行うとなっておりましたが、その当日は図書館が休館日であったということで、研修を行った実態が見当たらなかったという事例です。4番目に、機械警備の不適切事案で、機会警備の記録から本来正規の勤務時間の開始以降に機械警備が解除されていた、または終業時刻前に機械警備が開始されていたという記録から勤務が不適切な勤務であったというものです。5番目に、主任手当の算定誤り事案で、主任手当は日額支給となっており、毎月28日にその月の見込みとして事務センターの方に各学校から支給の報告をすることになっております。ただ、この場合に、実際休暇等で事前の報告と異な

る場合があります。本来であれば、それを速やかに訂正するところ休暇簿の処理が遅れたなど、単純に事務の誤りで発生してしまったという事案です。6番目の機械警備のうち、明らかに不自然な事案は、4番目と同様に機械警備の記録から聴取調査を行った結果、職員としては、その時間帯に学校内にはいなかったけれども、例えば、校内巡視を行っていた、または外で勤務をしていたなどと、本人は勤務をしていたけれども、書類上それを明確に裏付けるものがないという事案で、不自然だというものです。これらの6つの事案がありました。このうち、1番目から4番目の事案については、基本的には聴取調査で本人も不適切な実態を認めたケースで、これについては、関係校が保護者や児童生徒に対して、こうした不適切な事案について報告説明を行い、今後こういったことのないよう適正化に向けた取組を行うという説明をすることとなっています。なお、本市の学校において、これらの不適切事由に該当しましたのは、4番目の機械警備の不適切事案に該当した学校が1校、5番目の主任手当の算定誤り事案、先ほど説明したとおり、前締めで報告をして、休暇簿処理が遅れたようなケースで、これは19校ありました。6番目の機械警備のうち、明らかに不自然な事案は、4校該当しております。市教委としましては、調査結果について、それぞれ関係校に通知しております。中でも4番目の事例に該当する学校については、保護者や児童生徒に勤務時間遵守に関して適正を欠く実態があったと、今後、適正化に向けた取組について学校だより等を通じて説明するということを予定しています。また、主任手当の支給誤りについては、今後、主任等の勤務状況を的確に把握して適正な支給に万全を期すこと、また勤務時間遵守に関する調査で不適正であったという本人の証言が得られなかったけれども関係書類から明らかに不自然と指摘された学校については、今後、管理職が職員の出勤、退勤の確認に努めるなど職員の勤務時間管理の適正化を図るよう、3頁にありますように市教委から各学校に通知を行ったところです。加えまして、12月の校長会におきましては、特に機械警備に関する部分の調査対象が多かったものですから、特にこの中で多かったケースが長期休業中の勤務時間で、この期間につきましては、基本的に稼業日と同様の勤務時間が割り振られておりますので、勤務時間中に学校を離れる場合については、きちんと出張や外勤の命令、場合によっては年次有給休暇といった必要な手続を行うよう指導を行ったところです。以上です。

（中村委員長）ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

（土井委員）調査については、道教委の強い姿勢については、分かっているのですが、例えば機械警備の不適切事案について、学校が親に説明をするということ

が、今必要なのかという気持ちがあります。学校と家庭と地域が一体となって子どもたちをどうしようと、学力向上など先生方も頑張っている。そんな中で、こういう風になると学校への不信感というところを非常に危惧してしまうのです。それは、悪いことは悪いですよ。でも、それを親、そして児童にというのは、そういうことが本当にプラスに働くのでしょうか。でも、道教委が言うのですから仕方ないですね。

（蛭谷課長）非常に気持ちとしては、分かります。ただ、この度の件につきましては、当然新聞報道等に大きく取り上げられて、道教委でも、きちんと調査を行うと、そして行った結果ですので、不適正なケースがあった部分については、やはり説明責任があるだろうということで、この度、本市では1校でしたが、説明をすることで今後の信頼回復に努めていただきたいということですので、ご理解の程お願いします。

（鎌田教育長）この件については、22年度の会計検査で指摘された事項については、石狩市では該当はなかったといいますか、調査対象にならなかったのですが、その時にも同じような取り扱いをしたそうです。そのような前例があるので、今回しないと言う訳にはいかないというのが、道教委の立場で、そういったことで、児童生徒や保護者にも説明をということです。今回は、過去五年間の分ですので、当該教諭については、既に退職している、または、他の学校に異動しているという場合もありますので、本来的には、誰もその部分の認識がないというケースもあり得るのですが、一応、「過去にこういうことがありました」という報告と、これは全道的な部分でもあります、「今後、学校としての勤務の管理について、しっかりやっていきます」という決意を保護者の方に伝えるという、そんなニュアンスで是非、子どもたちや保護者の方々に伝えてくださいという形で、私どもは指導してまいりましたので、色々疑義はあるかと思いますが、全道的な対応なのでご理解いただきたいと思います。

（土井委員）石狩市のこの事案は、何年度の事案ですか。

（鎌田教育長）19年度・20年度です。

（土井委員）3・4年前でしたら、きっと、校長も変わっていますよね。本市では、1校が謝罪といいますか、報告するのですね。分かりました。

（中村委員長）他にご質問がないようですので、報告事項の③を了解ということでよろしいですか。

異議なし

（中村委員長）ご異議なしと認め、報告事項の③を了解しました。



#### ④ 星置養護学校の高等部移設等について

(中村委員長) ④星置養護学校の高等部移設等について、事務局から説明をお願いします。

(西田センター長) 星置養護学校の高等部移設等について、報告いたします。資料の6頁をご覧ください。急激な児童生徒数の増加に伴いまして、星置養護学校の狭隘化解消の取組が、予てからの課題となっておりましたが、北海道教育委員会が、一定の方向性を示しましたので、それについてご報告します。移設についての今年度の経緯としては、今年6月19日に星置養護学校長名で在籍する保護者対象に「星置養護学校狭隘化解消に関わる保護者説明会」を開催し、北海道教育庁学校教育局特別支援教育課職員が説明を行っています。同年7月18日に石狩市手をつなぐ育成会が、紅葉山校舎に通う保護者に対して、アンケートを実施しております。現在、紅葉山校舎には、小学部10名、中学部10名の計20名の児童生徒数が在籍していますが、このうち石狩市の児童生徒数は、小学部6名、中学部が8名の14名が在籍しています。今後予定されているスケジュールですが、この12月に道教委で補正予算を組みまして、星置養護学校本校から行程で約1キロにあります道立稲西高校の改修の実施設計を行い、来年3月末に、この稲西高等学校が閉校することが決まっております。4月以降には、閉校になる稲西高校内部を特別支援学校の教育課程に沿った改修工事を行い、平成26年の4月に高等部全体を移設する予定であると発表されております。紅葉山校舎の高等部設置についてですが、これまで平成19年度から北海道教育委員会、北海道に対して、小学部から高等部までの一貫した教育支援体制に配慮した特別支援学校の設置について、関係団体とともに要望させていただいておりますが、今年の8月に、先に申し上げました石狩市手をつなぐ育成会が紅葉山校舎に通います児童生徒の保護者にアンケートを実施した時に、やはり地元で高等部があった方がよいという意見が多かったものですから、その対応も含めまして、石狩市手をつなぐ育成会の会長・副会長・理事と百井部長と私の5名で打合せを行っております。会長からも、「道教委の考え方は、一定程度支持できるが、大切なのは在籍する保護者の声だ」ということがございました。百井部長からもこれまでどおり、石狩市手をつなぐ育成会と行動を共にしていくことには変わりがないと、保護者にとっても育成会にとっても、市にとっても良い方法を導き出していきたいと思います。ということで打合せを終えておりまして、今回12月に、平成24年度要望等について、このまま育成会として出すのが良いか、PTAを含めての出し方が良いのかなども、PTAや星置養護学校の学校長とも相談しながら、この先を決めて

いきたいということでしたので、現在未提出ということでもあります。今後も育成会と協議をしながら検討していきたいと思っています。以上です。

（中村委員長）ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

（土井委員）19年度に要望書を出した時には、既に稲西高等学校に高等部が移転するという話はあったのでしょうか。また、これからは紅葉山に高等部を呼ぶというのは、断念の方向でということでしょうか。

（西田センター長）道に対する要望は、平成19年から行っていますが、19年・21年当時は、石狩に高等養護学校をということでしたので、それを受けて23年、昨年1月に分教室ということですが、星置養護学校の紅葉山分教室が開設されたところです。ただし、そこには小学部と中学部しかないということになります。稲西高等学校の話については、今年になってからですので、あくまでも、そういった流れであります。道教委としては、星置養護学校の狭隘化の解消ということでの対策の一つですし、それを受けて石狩市の在籍する保護者の声が大事だということは、育成会からも言われておりますので、ここがこれからお話ししていくということになるかと思うのですが、現時点では、在籍している子どもたちが小中学部合計で20名ということで、分教室にならざるを得ない人数ではありますが、今後、小学部・中学部がしっかり残っていくということが大事なことから思いますし、その中でも、在籍する子どもたちがどう増えていくかということもあります。これについては、石狩市だけで考えていくには、なかなか難しい問題ですので、校区の見直しも出てくる話だと思います。ただ、ここになりますと、石狩市だけでどうにもならない問題もはらんでおります。そういったことも今後時間をかけて、検討していかなければならないだろうということで、引き続き、お話しをさせていただきたいと考えております。

（中村委員長）星置養護学校は、現在小・中・高の併置校ですが、今回、旧稲西高等学校に移設する際に、高等部の単置校になるのですか。星置高等養護学校とは、ならないのですか。

（西田センター長）同じように道教委にお聞きしたところ、現在まだ決まっていないということです。その方向性については、今後、検討していくということで、本校とのやりとりもありますし、まだ校名も含めて単置にするのか、そのまま星置養護学校の高等部として行くのかということですが、少なからず、高等部が出て行った後の現在使っている高等部棟は、今後、小・中学部に移していくという考えではいるようです。

（中村委員長）今後の方向性によっては、要望陳情の内容が変わってきますので

お聞きしたのですが、まだ決まっていないとのことで、今後の課題と受け止めさせていただきます。

（中村委員長）他にご質問がないようですので、報告事項の④を了解ということによろしいですか。

異議なし

（中村委員長）ご異議なしと認め、報告事項の④を了解しました。

（中村委員長）以上で、日程第5 報告事項を終了します。

## 日程第6 その他

（中村委員長）次に、日程第6 其他を議題といたします。事務局からございませんか。

### ① 市民図書館に関する情報提供について

（板谷副館長）私から、市民図書館に関する情報提供を幾つかさせていただきます。最初に、12月10日に行われた厚田小学校「あいかぜとしょかん」開館式についてです。当日は、来賓36人、児童と保育園児が87人、地域の方が20人、さらに主催者を併せ150人が参加して盛大に開館式が行われました。次の頁に当日の写真などを掲載しております。特に最初のセレモニーの「うんとこしょ・どっこいしょ」は、市長にも実施することを伝えずに始めて、参加をしてもらったこともあり、印象に残ったのか、市長のホームページ「市長の部屋」にも載っておりましたし、学校のホームページにも掲載いたしました。次に、返却ポストについてです。5月に、南線小学校に返却ポストを設置しましたが、第2段として、緑苑台小学校に返却ポストを設置しました。12月2日に設置し、実際の運用は、26日からを予定しています。さらにもう一つ、浜益の放課後こども教室の中で、浜益小の石黒校長先生に協力をいただいて、浜益も「きらり」が少し離れていますので、浜益小の中にポストを置こうということで、ただ今作っているところです。12月中に完成予定だったのですが、天気が悪くて作業が進まず、ずれ込んでいますが、1月には完成と考えています。最後に、花川南分館に

リサイクルコーナーを、これは本館でも人気が高いものですが、設置しました。  
12月22日、明日から運用を開始します。以上です。

（中村委員長）ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

なし

（中村委員長）ご質問がないようですので、その他の①を了解ということによりよろしいですか。

異議なし

（中村委員長）ご異議なしと認め、その他の①を了解しました。

（中村委員長）委員の皆さんからございませんか。

なし

（中村委員長）以上で、日程第6 その他を終了します。

## 日程第7 次回定例会の開催日程について

（中村委員長）日程第7 次回定例会の開催日程を議題とします。

（中村委員長）次回定例会については、1月25日の金曜日、15時30分からの開催を予定しております。よろしくお願い申し上げます。

（中村委員長）以上をもちまして、公開案件は終了します。秘密会案件の説明員以外の方は、ご退席願います。

## 【秘密会】

（中村委員長）ただいまから、教育委員会会議規則第15条に基づき、秘密会を開催いたします。

### 日程第2 議案審議

#### 議案第1号 平成24年度石狩市教育委員会表彰受賞者の決定について(秘密会)

（中村委員長）議案第1号 平成24年度石狩市教育委員会表彰受賞者の決定について、提案願います。

（鎌田教育長）議案第1号 本年度の石狩市教育委員会表彰受賞者の決定について、別紙に記載のとおり、教育功労表彰など個人11名、団体5団体、併せて、児童生徒教育奨励表彰についても、個人12名、団体2団体の候補者となっていますので、よろしくご審議をお願いいたします。詳細については、事務局からお願いします。

（上田課長）議案第1号及び別冊資料にて説明。

（中村委員長）ただいま、提案説明がありました議案第1号について、ご質問等ありませんか。

#### 質疑等省略

（中村委員長）他に質疑等がないようですので、議案第1号については、原案どおり可決ということでよろしいですか。

異議なし

（中村委員長）ご異議なしと認め、議案第1号については、原案どおり可決しました。

（中村委員長）以上で、日程第2 議案審議を終了します。

## 閉会宣告

(中村委員長) 以上をもちまして、12月定例会の案件は全て終了いたしました。  
以上で、平成24年度教育委員会会議12月定例会を閉会いたします。

閉 会 午後 3時45分

## 会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成25年 1月25日

委員長 中 村 照 男

署名委員 土 井 久美子